

## 「全鍍連」 2021年 10月号 巻頭言

全鍍連 技術担当副会長 野村 重之  
(アルファメック株式会社(株) 代表取締役社長)  
「大阪高等めっき技術訓練校」



大阪府鍍金工業組合では人材育成を目的とし、めっき訓練校を運営しています。昭和 54 年「高等めっき技術講座」として自主運営で開校しました。平成 5 年度より大阪府商工労働部より職業訓練校として認可され、「大阪高等めっき技術訓練校」として現在に至っており、毎年 30 名前後の生徒が入学、40 年間で約 1100 名の卒業生が巣立ちました。

授業内容は講義と実技指導に分かれます。講義の 204 時間（6 時間×34 日）は鍍金会館で行われ、電気化学、各種めっき技術、工程管理、排水処理などめっきに関することを広く学びます。講師陣は、大学、産業技術研究所、関連企業技術士の先生方を中心に、約 40 名で構成されています。

実技指導の研修課題として、生徒全員が全鍍連主催全国めっき技術コンクールに毎年参加しています。組合技術委員会が指導を担当し、生徒と一緒に遮へい板の形状や位置、電流値を変化させめっきの奥深さを体験してもらいます。会場と設備は電気めっき技能検定が行われる環境技術センターを利用します。近年コンクールの水準が高くなり訓練校からは上位入賞者があまり出ませんが、この科目は生徒にとって非常に有意義だと考えており、特に力を入れています。なんとと言っても訓練校のメインイベントは、5 月と 10 月に行われる合宿訓練です。大阪府内の観光ホテルで一泊二日、夜の楽しい宴会で親睦を深め（もちろんコロナ前ですが）、翌日は朝 8 時から研究論文について生徒が順番に進捗状況を報告し、先生方から研究の進め方についてアドバイスを受けます。ひとり 10 分ほどですが、内容の濃いやり取りが行われます。我々技術委員もこの合宿を引率しています。

5 月の合宿では、研究課題の選び方と全体的な方向性の指導を受けます。10 月になると、順調な生徒は実験結果と考察がまとまり、先生方から更なるアドバイスを頂き 12 月末の提出期限を見据えた論文作成作業に入ります。報告書の書き方に不慣れ、提出期限に間に合わないなど、頭を抱える生徒も多いですが、自分が決めた課題を通しての論文作成は貴重な経験となります。

講義によるめっきの知識のインプットと、実技指導や卒業論文作成のアウトプットが上手くかみ合い、勉強の手順を覚えたと会社へ戻ってからの問題解決力が向上します。

私は「高等めっき技術講座」の第 3 期生です。講義内容こそ時代とともに変化していますが、訓練校としてのスタイルは開校当時から変わっていません。先人たちのご苦労とご尽力のおかげで、大阪のめっき技術が発展できたと思います。こ

れからも、「大阪高等めっき技術訓練校」と「環境技術センター」を大切にして行きたいと思います。